

# 四日市港管理組合議会ニューズ

Yokkaichi Port Authority Assembly

第 20 号(平成 24 年 4 月発行)

さる 3 月 21 日(水)に平成 24 年第 1 回定例会が開会され、同月 27 日(火)に一般質問が行われ、議案 6 件が可決、議案 1 件が同意され閉会しました。

今回は、杉浦貴議員(四日市市議会選出)、北川裕之議員(三重県議会選出)の二人が四日市港港湾行政に関する質問を行い、管理組合執行部に答弁を求めました。

## 主な質問・答弁要旨

杉浦貴 議員



○ **四日市港の独自性というのは、エネルギー港湾の部分がとても大きいのではないかと考えているがいかがか。またそうすると、そのエネルギー港湾としての存在感を根本的に高めていく投資というのはどのようなものがあるかお答えいただきたい。**

◎ 四日市港の独自性は、国内有数の石油化学コンビナートを有する工業港として、また電力の安定供給が大変重要な課題となっている中、国内最大規模の出力を誇る川越火力発電所等が立地し、その発電用燃料を輸入する等エネルギー港湾として重要な役割を担っていることにあると認識しています。

四日市港では従前からエネルギー港湾として民間を中心に様々な整備が進められていますが、管理組合においても石炭船の大型化に対応するため、22 号岸壁の水深を 16m に増深する計画を予定しています。今後エネルギー港湾としてどのような整備が必要かということについては、企業のニーズ等を十分勘案した上で研究していくことになると思っています。

北川裕之 議員



○ **集荷対策の柱に 1 つである四日市港セミナーや説明会の開催において、新規開拓という意味合いでは、地域やターゲットを絞って行う説明会の方が有効ではないかと考えるが、来年度に向けて、この説明会の回数や地域の拡大について、どのような方針をもっているのかお訊ねしたい。**

◎ 四日市港説明会では、伊賀地域や滋賀県甲賀地域等で、特に四日市港の未利用企業荷主を主な対象として企業訪問等行っており、陸上輸送コストの低減や CO<sub>2</sub>排出量の抑制等四日市港利用のメリットを積極的に PR していますが、来年度からは現場を見学する機会を設定して欲しいという参加者からの声を受け、従来の内容に加えて四日市港の荷役の状況を見学いただく形で一体的に取り組んでいきたいと思っています。

このように説明会の開催を通じて、名古屋港等他港に流れている荷物を四日市港に利用転換してもらい取り組みをしていますが、特に来年度は岐阜県西濃地域で初めて開催する予定となっています。

※詳細な質問答弁等については、当組合議会ホームページ会議録をご覧ください。